

2021年度第3回 外洋常任委員会 議事録

開催日；2021年9月3日（金）18:00～20:10

会議の方法 WEB 会議（Zoom）

出席者；（理事）

馬場益弘 副会長、中澤信夫 副会長、大村雅一 常務理事、平松隆 理事、
橋田佳音利 理事、望月宣武 理事、菊池邦仁 理事、新田肇 理事、安田大助 理事
宇都光伸 理事、中村隆夫 理事、中村和哉 理事

（委員会関係）

八木達郎 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員長代理

日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長

船澤泰隆 国際委員会外洋小委員会委員長、金子純代 キールボート強化委員長、

服部好彦 ジャパンカップ委員会委員長、坂谷定生 参与、作田智恵子 艇登録 WG 長

鈴木一行 国際委員会外洋小委員会委員

鈴木保夫 外洋事務局長、

寺澤寿一 JSAF 事務局長、

小山悟 外洋艇登録事務局長

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で 18：00 より馬場副会長の挨拶で開始した。

馬場：東京オリンピックも終わりましたが、ここに出席の皆様にもお手伝い頂いたことに御礼申し上げます。

メダルはとれなかったが、著名なフォトグラファーからは賛辞をもらった。

3年後のパリは残念だが、外洋ダブルミックスが無くなった。

明日の理事会のことも踏まえて活発な意見をもらいたい。

議事

①外洋艇セールナンバー発行施行

作田：新しい事務局長のもとでつつがなく進んでいる。

8月から新しい予約を受け付けている。

ホームページをリニューアルし、外洋艇登録というページに変えてこのページに全て集約した。ページを見ておかしところがあれば連絡を頂きたい。

既に4艇の非会員からの登録があった。

登録艇リストはホームページにアップしている。

予約については、予約可能なナンバーをホームページにアップして受け付け、毎月 20 日で締め切り複数の予約があった場合は抽選としている。

詳細についてはガイドラインを読んで頂きたい。

大村：8 月初めに内閣府と海上保安庁に外部から、「JSAF が行おうとしている非会員所有の艇の登録は JSAF の定款に触れるのではないか。また個人情報の提供についても問題ではないか。」等の問い合わせがあったとの連絡を受けて、訪問して問題が無いことを説明して理解してもらった。

JSAF 定款では JSAF の事業は、「会員だけ」ではなく広く「セーリングスポーツのため」と規定されているので、非会員の登録艇が艇簡易触れるということは全くの誤解である。

保安庁には昨年も説明している。

レース中心ではなく全ての艇にセールナンバーを付け、安全のために無線も活用することを説明し、内閣府と保安庁に理解して頂いた。

保安庁との個人情報についての共有については JSAF の窓口の交通部とは別に警備救難部と調整することとなった。

現在は無線局への加入は会員艇のみであったが、安全のため今後は非会員艇も含む登録艇全てで利用できるようにしたい。

新田：海岸局別のヨットの登録リストの開示はできるのか。

また登録はどの様になるのか。

大村：登録は従来と同様に近くの海岸局を紹介する。

今は、無線局が夫々に管理しているので全体のリストが無いため、一括して JSAF で行っていきたい。

作田：JSAF 海岸局は、あちこち閉鎖され、現在みさきヨット、おおしまヨット、かごしまヨット、さつまいおうじまヨットの 4 局しかない、加入証明書発行は三崎ヨット（外洋三崎、三浦外洋セーリングクラブ、外洋湘南）、外洋南九州事務局と外洋東京湾事務局の 3 局で行っているが、なくなったところの管轄の艇はほとんどがみさきヨット局に流れている。

管理費についてはそれぞれの団体が負担しているが、南九州と東京湾は赤字となっているので JSAF として検討して欲しい。

また、非会員艇が無線局の登録ができるようにした場合に会員艇から金額の面で苦情が無いようにしてもらいたい。

大村：この問題は検討チームで検討していく。

②世界選手権

鈴木（一）：6 月にパリオリンピックでの外洋ダブルスマックスが無くなることにな

った。

2021 年外洋ダブルス世界選手権がイタリアで行われ、日本チームとして認定された、Team 貴帆がコロナの感染拡大のために安全を優先し、世界選手権のみの参加を要請したが認められなかった等のことからレースの運営に不信感を持ち参加を断念した。

欧州ダブルスには 9 か国 11 チームが参加。艇種は Figaro 3。

2021 年ファーストネットレースには Class40 が 35 艇が参加し、日本からは 2 チームが参加した。

2024 年のパリオリンピックに外洋混合ダブルスが無くなったことから、外洋常任委員会内のオリンピック外洋小委員会の発展的解消を提案する。

中澤：2028 年のロスオリンピックではショーケースイベントに出られる可能性があるので、今後の活動を取り纏めるためにも残してもらいたい。

馬場：今後もミックスダブルスも含めて諦めずにオリンピックの種目になるように頑張っていていきたい。

大村：名称は別にしてもこのような機能を持った委員会は必要と考える。

次回にも続けて議論したい。

③フラッグリレー

菊池：5 年にわたり行ったフラッグリレーの総括として資料を纏めた。

東京フィニッシュがコロナの影響でできなくなり、オリンピックの壮行会で披露した。これをもってフラッグリレーを終了とした。

④調査・検討チーム

大村：今テーマを整理しており、無線についても検討している。

船舶局の使用料の納入の問題、海岸局においても管理費の負担が厳しい状況であり、おおしまヨットと南九州では赤字となっている。

今後、世界的に通信システムが変わる可能性があるので、対応するためにも安全委員会とは別に通信の専門組織を作る必要があると考える。

技術委員会についても組織はあるが、規定の中に無いので規定に入れる方向で検討したい。

船検の備品についても JCI に問題をぶつけていきたい。

新田：海岸局の登録料の納付について理解していないオーナーがいると思うので、実態を調べる必要があると考える。

大村：今後料金も含めて制度化したい。

⑤各専門委員会・小委員会からの報告

- ・外洋計測委員会

八木：ORC からは報告がないが、IRC の証書の発行は、前年度は前々年度の 80%、今年度は前年度と同様の 80%となっている。

- ・外洋安全委員会 平出：特になし。

- ・レース マネジメント委員会（欠席）

- ・ルール委員会外洋規則小委員会

日下部：外洋レースの開催が無いため、現場の情報が収集できない。

ホームページの JSAF 外洋規則 2009 が更新されていないので、委員会で点検していく。

大村：これについて意見あったら、メール等でも良いので意見を頂きたい。

- ・国際委員会外洋小委員会

船澤：報告事項は特にないが、ワールドセーリングの O&O の 1 回目の会議が 10 月に開催されるのが、現時点では何も動きが無い。

- ・キールボート強化委員会

金子：イベント活動が自粛中なので、若手セーラーを勧誘しながら活動している。

ウィメンズカップを一昨年から実施しているが、昨年は中止だったが今年は復活した。

- ・ジャパンカップ委員会

服部：コロナの影響で活動が出来ていない、ハイパフォーマンスフリートのサムライフリートが相模湾に集まって活動している。

これをジャパンカップにどのように取り入れられるか考えている。

⑥各水域の報告

- ・北海道東北

菊池：外洋いわきでは、福島でヨット体験教室を準備していたがコロナで中止した。

- ・関東

新田：関東ではほとんどレースが開催されていない。今後の島回りレースが危ぶまれてる。

平松：7月18日に相模湾オープンレースを行い約40艇の参加があった。

9月4日、5日にシーボニアレガッタが予定されている。

- ・中部

坂谷：他の水域と同様に今年度は4月に1レース行ったのみでそれから今まで中止。愛知県、三重県でもコロナが増えているので難しい。

・関西

安田：関西も同様に 8 月 22 日に延期になった春のレースが再延期。シアトルカップも中止。レースの開催の判断は主催者が決めている。

・九州、沖縄

宇都：大きなレースは殆ど中止、クラブレースについては情報が無い。
種子島カップは自治体より開催の要望があったが、コロナの蔓延防止対象地域となった為中止。火山めぐりレースは、今年は県内のみの参加者の開催で考えているが明日最終決定をする。

・和歌山

中村（和）：徳島では阿波踊りレースを行い約 30 艇の参加があった。
紀伊水道レースは 9 艇の参加、10 月の島精機カップは今のところ予定通り開催の予定。

⑦明日の理事会について

大村常務理事より選挙規則の変更、表彰、寄付金、委員会委員長の変更等の議案の報告及び選挙規則の新・旧の制度の違いについて説明がなされた。
望月理事より、会員の減少によって投票権数が減る団体があることが説明された。

⑧外洋団体長会議（9 月 25 日）について

大村常務理事より今回は WEB で行うこと及び議題案が説明された。

⑨その他

・日本パラオ青少年セーリングクラブ

新田理事より、日本パラオ青少年セーリングクラブの設立目的と以下の主な事業計画が説明された。

- パラオと横浜においてパラオ、日本両国の子供達の OP 親善レースの開催
- マイクロプラスチックの拡散状況調査で JAMSTEC に対する補助活動
- 日本パラオ沖縄外洋レースの企画

以上の説明に対し以下の意見が出された。

望月：2025 年に大阪万博があるがこれに絡められないか。

大村：日本パラオ沖縄外洋レースは他の事業と切り離して正しい会計処理をすることが必要である。OP に関しては直接関係ないが、クルーザーレースに関してはセーリング連盟が共同主催となるのであれば、責任上外洋常任委員会から委員をパラオレース実行委員会に出さなければならないと考える。

鈴木（保）：この場は外洋常任委員会の場合ですが、新田理事ほどの立場（JSAF 理事
又は、日本パラオ青少年セーリングクラブ事務局長）で話をしているのですか。

新田：両方です。

鈴木（保）：外洋ロングレースはグアムレースの事故以来、開催が少なく低迷して
いたところに新田理事が神戸ー横浜レース、小笠原レース、パラオレースを実行
したことは評価したい。

外洋ミックスダブルハンドでは外洋レースに注目が集まったので、このタイミン
グを利用して、JSAF の全体的な外洋レースの計画をするべきと考える。

一方で世の中はコンプライアンスを重視しており JSAF においても幹部はガバナ
ンス研修会に参加している。

このようなことから、レースに際しての会計の透明性は必須であるが、昨年開催
されたパラオレースでは会計の透明性が不十分であり、納得していない人が多い
と聞いている。

会計の透明性が無ければレースの継続は難しいと考えるので今年のレースの会
計をきちんと開示して頂きたい。

作田：最初の会計報告でミスが見つかり、再提出された報告書ではかなりのプラス
になっていたが、それで終わっている。パラオレースを計画しているとなれば共
同主催ということもありうるので、前回の会計の最終報告が欲しい。

・サバイバルトレーニング)

大村：6月に開催の予定をしていたサバイバルトレーニングが延期になっていたが、
1月に2回実施することで調整している。

6月に申し込んだ人から優先して受け付ける。

・今後の外洋の会議日程及び横浜で10月に開催のフローティングボートショーにつ
いて大村常務が説明し、最後に馬場副会長の閉会の挨拶で終了した。

馬場：多くの議題に意見を頂きありがとうございました。

次回常任委員会も宜しくお願い致します。

20時10分閉会

以上